

1. 新病院の設計に望むことがあれば書いてください。

エントランス・受付・案内表示

◇広い玄関ロビー

◇総合案内コーナーの充実

- 病院の顔となるエントランスホールにつきましては、吹き抜けのある可能な限り広いスペースを確保したいと思っています。内装や案内表示などはこれから計画していくこととなりますので、わかりやすく、充実した素敵なエントランスとなるよう、患者目線での皆様のご意見をワークショップの中でいただければと思います。

患者の動線

◇私の母は緑内障の手術を受け今でも顔面を絶対にぶつけてはいけない。2カ月に一度、〇〇病院に定期検査を受けに連れて行くが、眼科へ到達するまでに他診療科の待合席や受付機の間をすり抜けなければならない。

◇エレベーターへの曲がり角も見通しが悪く、人とぶつかりそうで気が抜けない。

◇学校のような横並び型より放射状配置のが人の移動は安全か？

- 新病院では患者さんの動線に配慮した設計を行っていきます。他科とは異なり特殊な検査室のある眼科や耳鼻咽喉科、100人会議の中で他の外来からは見えにくい配置の希望が多かった婦人科につきましては、2階への配置を考えています。2階の外来には、正面玄関を入るとすぐ2階専用のエレベーターと階段を配置するなど、内科などの他の患者さんの動線と交差しないよう配慮していきます。

◇どの病院に行っても迷路みたいなので、玄関に入ったら各科がすぐ分かるようにしてほしい。

◇受付から外来、検査室など動線をなるべく短く、しかも解りやすいのがいい。

◇人の流れを考えた間取りを

◇昔の設計の建物では増築・増設を繰り返し、通路なのか待合場なのか区別がはっきりしない。

◇ロビーから各科が見渡せるづくり

◇患者の動線が短いように

◇患者の動線の短縮に知恵を

◇距離的動線の短縮（患者の歩く距離の短縮）

◇時間的動線の短縮（受付⇒診察⇒結果通達⇒投薬（処方箋渡し）⇒清算）

◇動線を短く機能的な配置

- 新病院では、患者さまの動線に配慮した設計を行っていきます。基本設計の原案では、正面玄関を入るとすぐ目の前に総合受付があり、そこから南にメインとなる廊下が伸びています。廊下の東側に外来診察室、西側に中央処置、生理検査、放射線が並びますので、外来診察室から各種検査への距離も短く、現在の市民病院に比べると分かりやすく、ぐるぐるあちこちを回らずに済むよう考えています。詳細につきましては、今後のワークショップで基本設計案をお見せいたしますので、そちらを見ていただいた上で、ご意見をいただきたいと思っております。

◇救急患者に迅速な処理が出来るよう配慮（設計の分野でも）

◇予防診療と急患との仕切り

- 救急患者の動線は一般の患者さまの動線と交差しない設計です。またもし緊急オペとなっても、救急の処置室近くのエレベーターでオペ室のある階層にすぐ搬送できます。

待合

◇待合スペースの充実

◇受付・会計・窓口・診察室・特に待ち時間長くなっても苦痛を感じない待合室。

- 各外来の待合は、窓があり自然の光が差し込み明るく、緑が見られる優しい空間となっています。待合にディスプレイを設置して様々なコンテンツ情報を流すことなどを提案する業者などがありますが、そういったアメニティについては今後、委託業務の検討の中で話し合っていたきたいと思います。今後、デモ機を待合に設置するなどして皆様のご意見・ご感想をいただきたいと思っています。

◇プライバシーが確保できる 中待合の工夫など

- 新病院では中待合は設置いたしません。また新病院では診察室は天井まである壁で仕切り、現在のようなカーテンの入口ではなく引き戸を考えています。現在の病院のように診察室での会話の内容が隣の診察室や待合にいる他の患者さんに聞こえることがないように配慮します。

◇小児科待合の充実、子どもが飽きないよう、絵本やおもちゃを用意

- 小児科の待合には、お子様のためのプレイルームを予定しております。また、他の外来に来た大人の動線となるべく交差しない位置を考えております。遊具やしつらえなどにつきましては、充実したプレイルームとなるよう、ワークショップの中でみなさまからご意見をいただきたいと思っております。

病棟の談話室・デイコーナー

- ◇談話室は出来る限り広くし、各フロアの中央に配置する。
- ◇海が見える休憩所。(面会の人と話をする場所)
 - 各病棟の中央にあるスタッフステーションまわりに2ヶ所、デイコーナーを考えています。特に、最上階の回復期リハビリテーションの病棟については広いスペースを取っています。病院の配置上、海は西側のデイコーナーからしか見ることはできませんが、360°開放的な景観ですので、どこのデイコーナーの見晴は良いと思います。

アメニティ

- ◇コンビニや、喫茶店とカフェコーナーを希望
- ◇検査や診察待ち時間に過ごせる場所。(周辺に喫茶店がないので、海が見えて食事ができる所) …ガスト等と連携するとか?
- ◇待時間を過ごしたりおしゃべりするのほっとできるような空間や雰囲気
- ◇売店の充実を
- ◇病気に関する書籍もそろえてドクターが患者に進めては。自己管理がしっかりできないと病状悪化を防げない。
- ◇新病院の近くにはスーパーやコンビニがあって便利なようだが外出時間を短くしたい通院患者や付添者にとって院内売店は必需品。
- ◇レストラン・喫茶の充実。魅力ある売店を誘致。外から入れるよう配慮。
- ◇病棟ごとの談話室はもちろん、付き添いの人やボランティアさん、はたまた直接病院とは関係ない人が来やすくなるようなスペースがあると良いと思います。
 - 売店や喫茶、食堂、コンビニについては今後、「委託契約」を考える中で話し合い、広く募集を行います。現在の基本設計案の段階では、エントランスホールの周りにコンビニと喫茶、最上階の海が見える西側に食堂のスペースを確保しています。業者選定の際は、魅力のある提案者を選びたいと思います。
- ◇分割使用できる会議室をつくり、地域の方々にも利用していただくようにする。
 - 新病院では各種イベントや教室、会議などが行える「とこなめホール」を計画し、分割使用できるよう検討いたします。病院や保健センターの会議等で使用していない時は、地域の方々にも開放したいと考えています。
- ◇ベビーベッド、授乳室、オムツ替え台の設置
 - 1階のコンビニの隣と小児科待合に授乳室を計画しています。授乳室にはベビーベッドやおむつ替え台、ミルク用の給湯器などを設置する予定です。

ワークショップシート①とりまとめ

- ◇受診時の託児。子どもの保護者や兄弟が受診するとき、健康な子どもをあずける場所が欲しい。
- ◇病気でない子、しかし家に置いてこられない子を預かることができる部屋、子ども（乳幼児）用のベッドを待合に（トイレだけでなく）。
- ◇病児保育が可能だと良いが…
 - 受診時の託児につきましては検討課題です。待合には乳幼児用ベッドを設置いたしますが、病児保育の実施につきましては今のところ考えておりません。

感染対策

- ◇感染時の受診。車内で受診を待つことができるように、専用駐車場と車用PHSの整備
- ◇予約システムを改善し、待合にいる時間を短くすることで、感染リスクを下げる。
 - 予約システム等を利用した、自家用車への連絡につきましては、今後、医療情報システムの中で検討となります。またパンデミック（ある感染症が全国的に大流行した状況）時には一般患者とは動線を別にした専用待合ができるよう設計しております。

ボランティア

- ◇ボランティアを充実するために休憩所となる部屋を設置。屋外からも入れるように。
- ◇ボランティアが動きやすいように
- ◇院内ボランティアの活用（万一の事故に対する安心も考慮）
- ◇ボランティアの拡充、ボランティアの人数拡大と講座開設
- ◇ボランティアの配置拡大と研修による室の向上
- ◇ボランティアコーナーの設置
- ◇ボランティアの待機コーナー又は部屋
 - 1階のエントランスホール付近にボランティアの方々が休憩したり、打合せをしたりするスタッフルームを計画しています。病院敷地の花壇等の手入れからはじまり、院内の案内役まで、他病院を見ても病院で活躍されるボランティアの方は多くみえ、病院はボランティアの方に支えられています。当院でも、ボランティアの皆さんにどのように活躍していただくかについて、今後真剣に考えていきます。第1回目のオリエンテーションでご意見のありました、外から入ることができる仕様につきましては検討いたします。

デザイン

- ◇明るいムードの色を、全体的に使って欲しい
- ◇各科の区別を子供でも判断しやすく、はっきりした色が動・植物にしてはどうか。
- ◇明るく
- ◇エントランスホールやその周辺は「病院」らしくない、ちょっとおしゃれな雰囲気期待する。
- ◇機能美を追及してスッキリしたデザインに
- ◇古くてみすぼらしい病院は患者を不安にさせる。でも商業施設ではないからチャラいデザインは不必要。特にガラスの多用には問題が多い。
 - **内装をはじめとするデザインにつきましては、今後のワークショップの中でみなさまにご意見を伺いたいと思います。たくさんのご意見がいただけるのを楽しみにしております。**
ガラスにつきましては、採光や建物の強度、保温性とのバランスを考えながら検討していきます。
- ◇明るさと清潔感あるいは自然と癒しの空間を取り込んで欲しい
- ◇緑を多くして欲しい（市民に寄付してもらって、木を植える）
 - **各外来の待合は窓があり自然の光が差し込み明るく、緑が広がる空間を考えています。各病室はベッドごとに窓があり、病院の周囲には高い構造物はありませんので、ほとんどの病室からは開放的な景色が見られます。**

ユニバーサルデザイン

- ◇受診を待つ椅子の工夫
- ◇バリアフリーの徹底
- ◇高齢者、障がい者、お子さん連れなど弱い立場の方の利用しやすい施設（広い通路・難聴者や外国人の手助けなど）
- ◇高齢者、身体障がい者、妊婦、幼児、病人、けが人、あらゆる角度から検討したバリアフリーであることと貴職員スタッフの利用面との整合性から素案を作成してほしい。
- ◇聴覚障がい者のために手話やノートテイクする人材が待機できるコーナー
- ◇案内（電光）掲示板には外国語も表示できること
- ◇レベルの違う患者に合わせた道具の提供
- ◇エレベーターに、まったく手が使えない車いすの人が押せる足元ボタンを
 - **新病院ではバリアフリーを含めたユニバーサルデザインに十分配慮いたします。またボランティアの方の配置や設備、道具類についても、今後のワークショップの中で、利用者目線でのみなさまのアイデアをお**

聞きしたいと思います。

交通アクセス

◇駐車場から入口までが遠いのは具合の悪い病人にはつらい。

- 敷地の制約があり病院の入口と駐車場が少し離れた場所にあります。可能な限り配慮したつもりでおります。詳細につきましては、今後のワークショップ内で、実際の図面を見てご意見をいただければと思います。原案では、正面玄関すぐに車イス専用の駐車場を10台確保する計画です。また送迎の場合は正面玄関まで車寄せをしていただき、付添の方が車を置いて戻ってくるまでの間は、患者さんをボランティアの方にお願ひするなどの検討方策を考えています。

◇巡回バスなど交通アクセスを充実

- 新・常滑市民病院基本構想において「交通弱者の病院へのアクセス確保について、十分配慮する」と明文化していますが、現在、公共交通機関の乗入れやコミュニティバスなど関係機関の調整等を含め検討中です。どのようなアクセスが適当なのかについてはワークショップで議論していただきたいと思います。

情報提供、相談コーナー、広報

◇医療についての一般的な相談ができるコーナー又は部屋

- 新病院では保健センターを合築する予定です。ワークショップには保健師も参加しますので、保健センターと市民病院とでどんなことができるかをワークショップの中でみなさまと考えていきたいです。なお、入院中・通院中の患者様につきましては、入退院の相談ができるPFM室（地域連携室）や栄養相談室、救急や中央処置室にある説明室やオベ室の面談室、病棟の各階にある面談室など患者様と病院スタッフがご相談できるスペースが数多くあります。いずれも個室でプライバシーについては十分配慮しています。

◇PRコーナーの設置（顧客コミュニケーションの強化のため）

◇医療情報、市民病院のPRのための掲示板、資料等の設置

◇「病院友の会」等、市民病院のファン拡大

- 「コミュニケーション日本一」の病院を実現するため、どのようなPR施設を設け、どのようなPRをしていけば効果的なのか、ワークショップで皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

維持管理、空調、清掃など

◇窓ガラスも空調を考えたときはほどほどに

ワークショップシート①とりまとめ

- ◇広すぎるガラス窓は省エネ効果：低
- ◇病室の南ブロックは昼夜の温度変化が大きく患者は生活し辛いまた、病人の目に直射日光は強すぎるので大抵の患者はカーテンを閉めている。息子が入院した時、私はわざわざ北ブロックを希望した。
- ◇病棟は一年中一定温度キープなのでガラス窓は小さい方が省エネ効果が大きい。ガラスは割れると凶器になる。強化ガラスが事故や災害にどの程度耐えられるのかわからないが、性能の良い物ほど高価なのは。
- ◇できた後の維持管理にあまり費用がかからないような設計
- ◇空調や清掃などに配慮して
- ◇メンテナンスを考慮し無駄なデッドスペースをつくらない。
 - **基本設計案では入院患者さんのアメニティ向上の観点から全ての病室に窓を設けることを目指しました。このため、窓が多くなっていますが、現在は空調負荷の低減のため、断熱性の高い複層ガラスや庇やバルコニーによる日射の遮蔽、外壁の乾式タイル工法などにより西日を遮るなどさまざまな技術があります。また、日建設計は常滑市民病院以外にも数多くの病院の設計を手掛けており、完成後の維持管理を考えた設計のノウハウがありますので、詳細につきましては、ワークショップで日建設計より説明を聞き、話し合っていきたいと思います。**

熱源システム

- ◇再生可能エネルギーの導入
- ◇万一の電源喪失に備えて、太陽光発電・太陽熱発電・燃料電池等を備えておく必要がある。
 - **太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの利用については今後、「設備」に関する打合せの中で、設置費用や導入費用、運用費用やメンテナンス費用など費用対効果を比較しながら計画していきたいと思えます。なお、災害時につきましては、非常用発電機などの設置により、電源が止まってしまうことのないような熱源システムを計画しています。**
- ◇りんくう NEDO や県内の大学などと提携し、実証実験の名目で補助金をゲットして格安に設備を作れないだろうか。売電収入も見込めるし。
 - **各機関と提携については検討いたします。また国や県からの補助金につきましては、少しでも建設費が安くなるよう、情報収集してまいります。**

保健予防への取組

- ◇体操やミニ講座など保健予防活動のできる場所
- ◇地域住民の健康を守る、治療だけではない健康維持・増進の機能を持つ市民病院を望みます。

◇予防医学

- 新病院では、市民のための保健活動、健康づくりの拠点である保健センターの合築を予定しております。第1回ワークショップで保健予防課長から説明がありましたとおり、様々な健康講座や乳幼児健診・生活習慣病予防の健診など、今以上に、多種多様な健診機会の提供と、病院と連携した予防活動を行っていきたいと思っています。

◇健康診断など気軽に受けられる体制作り

- 新病院では、新たに健診センターを計画しています。健診センターは一般の患者さんとの動線が分かれるよう、他の患者さんとは別の入口と駐車場を設けたいと思います。

将来を見据えた設計

- ◇財政難で、市民の意見は建設に対して、必ずしも賛成の方ばかりでは無い状況です。その様な中で、予定地の飛香台は人口増加も見込まれ、万が一の地震に遭っても津波の心配は無く安心です。今後、50年100年後を見越し、又、市民が気軽に集える交流の場も兼ねた設計を望みます。

- ご指摘のとおりです。病院と市民の方々と、どのような交流のあり方がよいのかにつきましては、ワークショップ内で考えていきたいと思います。

- ◇時代の変化に対応できるように可動式壁の採用もありうるのでは？(30年後のリフォーム余地)

- ◇現在の病院の改善レベルではなく、将来を見据えた設計を望む

- ご指摘はごもっともです。ただ医療の将来予測は難しく、国の政策により大きく変わるものでもあるため、全ての可能性に備えようとすると過大投資となるおそれがあります。基本設計案では、病院内の間仕切りを変えられることができるよう、柱など支点(構造物を支持する点)の間隔を大きくとった大スパン構造を採用し、また将来的な拡張を予定した建物の配置や各部門の配置を計画していきます。

- ◇将来、老人施設を隣接できるように考慮した配置。

- 建設予定の医療福祉ゾーンのうち新病院建設には3.0haを予定しております。残りの1.3haの土地については、具体的な施設は決まっておりませんが、将来何らかの施設がくることを予定して、新病院の配置計画を進めております。介護施設との連携は、今後とも重要な課題であると考えておりますが、施設が隣接しているべきかどうかにつきましては、ワークショップで検討していきたいと思います。

新病院の基本理念

- ◇コミュニケーションのとりやすさを配慮した病院（病院の職員同士、患者と病院、地域の医療機関、行政
- ◇「コミュニケーション日本一」の実現に向けて患者の側に立った目線での設計を望みます。
- ◇規模が小さいからこそ実現可能な「日本一コミュニケーションのいい病院」
 - 設計段階では、病棟では患者様の顔がみえるオープンなスタッフステーション、また病院職員同士のコミュニケーションのため、管理部門に医師・看護師・事務職員が集まるラウンジなどを考えております。また保健予防について市役所との連携を強化するために保健センターを合築します。患者様とのコミュニケーションについては、今回のワークショップで、みなさまから患者さま目線でのご意見をお聞きしたいと思えます。

病診連携

- ◇病診連携の拡大と充実
- ◇診療所から紹介された人々がスムーズに診療が開催される体制
 - 新病院におきましては「連携」がキーワードだと思っております。ハード面というよりは、ソフト面での課題が大きいと思われまますので、今後、ご指摘いただいた内容で考えていきます。

病院の方針・経営改善

- ◇「新病院の基本方針」のぶれない堅持、実践。
 - 実践達成のための各項目ごとのブレークダウンした具体策の明示とプラン・ドゥー・シーを加味した工程表作成、メンテナンス。
- ◇新病院開業後も来院者への積極的声かけ（来院者が望む声の聞き取り）から血の通った市民目線の頼られる病院への改善継続
- ◇病院目線ではなく、患者目線での対応
 - 今回の設計に関するワークショップに限らず、今後ともご指摘のような機会を設けていきますので、患者さま目線でのご意見をいただければと思えます。
- ◇市民病院に行くと「一日仕事」からの解放
- ◇待時間の解消
 - 待ち時間の解消につきましては、多くの患者さまよりご意見をいただいております。大きな課題であると考えています。医師の不足や急患など、いかんともし難い点もありますが、なるべくストレスなくお待ちいただけるような工夫を考えてまいります。また情報機器の導入による解消につきましても今後検討してまいります。

その他設計全般

- ◇赤字経営から黒字へ持っていける病院になるような設計を
 - 過大な投資となりすぎない範囲で、施設・設備の改善による医療の質の向上や患者さまのアメニティの充実を目指します。

- ◇身の丈にあった病院（シンプルで使いやすい。機能重視）
 - 80 億円の予算を超えないよう身の丈に合ったシンプルで使いやすい病院の設計に努めてまいります。またワークショップなどを通して、みなさまからのご意見をいただき、患者さまの目線に立った、わかりやすく機能的な病院を目指します。